



iDeCoとマッチング拠出どちらを選べばいい？

- 資産運用
- 年金財政
- 年金制度
- その他

企業型確定拠出年金（以下「企業型DC」といいます。）制度の加入者が個人のお金をDCに追加拠出する方法として、iDeCoとマッチング拠出の2つがあります。iDeCoは企業型DCとは別枠で自分で掛金額を決めて拠出する方法で、マッチング拠出は加入している企業型DCの事業主掛金に従業員が上乘せして拠出する方法です。iDeCoとマッチング拠出の併用はできないため、資産形成の幅を広げたい人にとっては、iDeCoとマッチング拠出のどちらを選択するのが良いのか迷うのではないのでしょうか。今回はiDeCoとマッチング拠出の選択について解説します。

2024年12月法改正による拠出限度額の見直し

2024年12月から、iDeCoの拠出限度額が企業型DCと確定給付企業年金等（以下「DB等※1）」と併用する場合、月額1.2万円から2万円に引き上げられました。ただし、月額5.5万円から各月の企業型DCの事業主掛金額とDB等の他制度掛金相当額を引いた額を超えることはできません。また、企業型DCの拠出限度額も原則「月額5.5万円から各月のDB等の他制度掛金相当額を引いた額※2）」に変更されたため、加入者はこの枠内でDCへの追加拠出額を考える必要があります。

加入制度	iDeCoの掛金拠出限度額 ^{※3)}	
	(法改正前)2024年11月以前	(法改正後)2024年12月以降
企業型DCとDB	月額2.75万円－各月の企業型DCの事業主掛金(月額1.2万円が上限)	月額5.5万円－(各月の企業型DCの事業主掛金+DB等の他制度掛金相当額)(月額2万円が上限)
企業型DCのみ	月額5.5万円－各月の企業型DCの事業主掛金(月額2万円が上限)	
DBのみ	1.2万円	
企業型DC・DBどちらもなし	2.3万円	

※1) 確定給付企業年金(DB)、国家公務員共済組合、地方公務員共済組合、私立学校教職員共済組合、厚生年金基金、石炭鉱業年金基金をいいます。

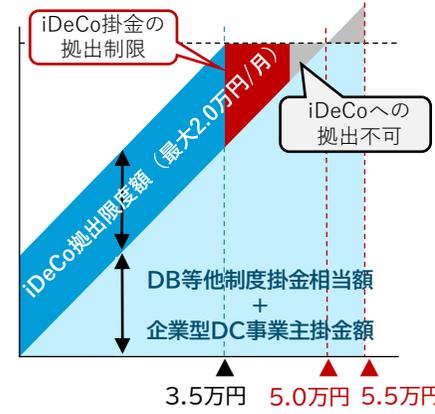
※2) 法改正にかかる経過措置により改正前の限度額である2.75万円も適用可能です。

※3) iDeCo掛金は最低0.5万円、千円単位で設定可能です。

実際の拠出可能額はいくらなのか？

iDeCoとマッチング拠出における掛金の拠出可能額は、DB等他制度の加入状況や企業型DCの事業主掛金によって異なります。DB等の他制度掛金相当額と企業型DCの事業主掛金を足した額が3.5万円を超える場合、iDeCoの掛金可能額は2.0万円未満になります。

例えば下図のとおり、個人の状況（事業主掛金額等）によって拠出可能額が異なるため、iDeCoかマッチング拠出のどちらがより多くの追加掛金拠出が可能かを確認するなど、慎重な検討が必要です。



拠出可能額の例(企業型DC・DB等他制度(1.0万円)がある場合)

	iDeCo	マッチング拠出	
		経過措置あり	経過措置なし
Aさん(事業主掛金1.5万円)	2.0万円	1.25万円	1.5万円
Bさん(事業主掛金2.25万円)	2.0万円	0.5万円	2.25万円
Cさん(事業主掛金2.75万円)	1.7万円	0万円	1.75万円

マッチング拠出加入者掛金の拠出限度額

《経過措置あり》事業主掛金額以下かつ事業主掛金との合計が2.75万円

《経過措置なし》事業主掛金額以下かつ事業主掛金との合計が5.5万円－DB等の他制度掛金相当額の範囲内



スミセイのiDeCoプラン

運営管理機関手数料0円コース

離転職される従業員さまの資産移換先、iDeCo加入検討中の方にご紹介ください。

どなたでも
運営管理手数料無料

充実の
運営サービス

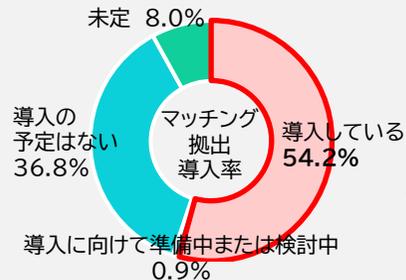
低廉な信託報酬で
多彩な運用商品

iDeCoとマッチング拠出の拠出傾向

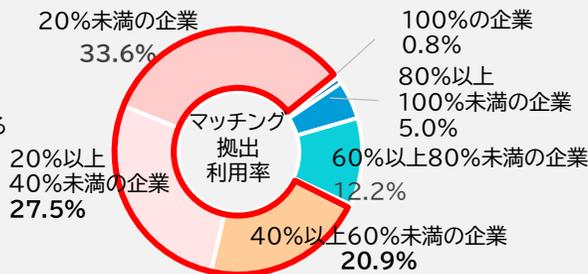
下図の統計データによると、企業型DC導入企業の54.2%がマッチング拠出を導入しています。マッチング拠出とiDeCoの両方に加えることはできませんが、企業がマッチング拠出を導入していれば、従業員はiDeCoかマッチング拠出のどちらかを選ぶことができ、選択肢が増えますので、マッチング拠出の導入を検討してみるのも一案です。一方で、マッチング拠出を導入していても利用率が60%未満である企業がほとんどであり、周知などにより更なる利用の余地もあると考えられます。

DC加入者が追加で拠出する掛金の平均額は法改正前のデータで「iDeCo: 11,526円、マッチング拠出: 5,633円」となっており、iDeCoの方が倍近く拠出されています。マッチング拠出は事業主掛金額以下という制約があるため、iDeCoほど拠出ができないことが原因かもしれません。

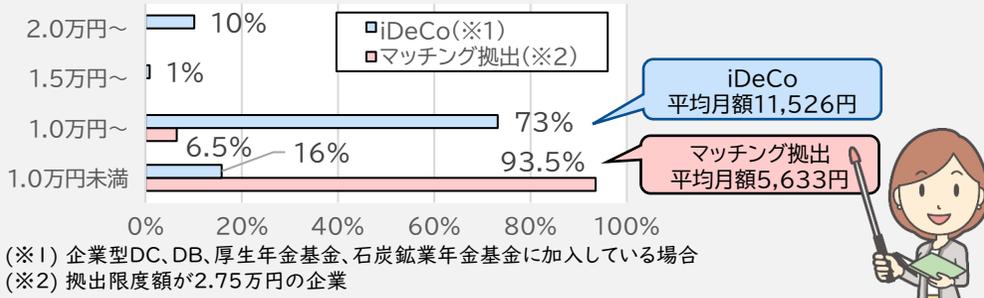
■企業のマッチング拠出導入状況



■企業のマッチング拠出利用状況



■iDeCoとマッチング拠出の平均拠出額



(※1) 企業型DC、DB、厚生年金基金、石炭鉱業年金基金に加入している場合

(※2) 拠出限度額が2.75万円の企業

(出典) 企業年金連合会「2022年度確定拠出年金実態調査結果(概要版)」iDeCo(個人型確定拠出年金)の加入等の概況(2024年10月)より当社作成

- ◆ 本資料は情報提供を目的に作成しているもので保険の募集を目的としたものではありません。商品のご検討にあたりましては、当社作成のパンフレット等をご覧ください。
- ◆ 本資料のデータや税制・法令等は、特定の記載がない限り、2025年1月現在のものです。今後、税制・法令等の改正により変更となる場合があります。

結論として…iDeCo? マッチング拠出?

最終的にどちらを選べば良いのでしょうか。一長一短がありますが、拠出できる金額、手数料の有無、負担額、運用商品はどれが良いのか等、個々で決定するポイントを整理して決めることが大切です。

	iDeCo	マッチング拠出
手数料	全額個人負担(最低月額171円) 手数料は金融機関により異なる	企業負担のため個人負担は0円
運用商品	自分で選ぶ金融機関のiDeCo 商品ラインアップから選択	勤務先の 商品ラインアップから選択

iDeCoに加入する方が向いている人

- ✓ 企業型DCの掛金額が低い
- ✓ 企業型DCで運用したい商品がない
- ✓ 手数料個人負担でも好きな商品で運用したい
- ✓ iDeCoと企業型DCは、目的が違うので資産を別々に管理したい

企業型DCでマッチング拠出をする方が向いている人

- ✓ 企業型DCの掛金額が高く、マッチング拠出をする余地がある
- ✓ 企業型DCの商品ラインアップの中で運用したい商品がある
- ✓ iDeCoの手数料を払いたくない
- ✓ DC資産はまとめて管理したい

まとめ

企業は、従業員にとって魅力のある退職金制度を準備する必要性が高まっています。企業型DCを導入していない企業はDC導入を検討し、すでに導入している企業においては、運用商品ラインアップの見直し(運用商品の追加や除外)を定期的に行ったり、制度や法改正の内容をきちんと従業員に周知できるよう努力していきましょう。

2025年度税制改正大綱(2024年12月20日公表)

今回、確定拠出年金制度の拡充が盛り込まれました。実施時期は未定ですが、**現行の掛金上限から7,000円アップ**も含まれており、今後の拠出枠拡大にも注目していく必要があります。

【主な改正内容】

- ① マッチング拠出額(事業主掛金額まで)の制限撤廃
- ② 企業型DCの拠出限度額の引き上げ(掛金上限が7,000円アップ)
- ③ iDeCo加入年齢の引き上げ(特定条件を満たす場合)
- ④ iDeCo拠出限度額の引き上げ(第三号被保険者を除く)

あなたの未来を強くする

住友生命

【住友生命保険相互会社】

東京本社 〒104-8430 東京都中央区八重洲2-2-1

電話(03)6664-8640(年金コンサルティング室)

<ホームページ> <https://www.sumitomolife.co.jp>

定型2024-15